

# しゅうれんかい(修練会)からのメッセージ

公益財団法人豊島修練会 2016年1月27日号(通算第4号)

## 子どもたちへ (小さなお子さんには読んであげてください)

友達をいじめることがいけないことは知っていますね。悪口を言うこと、仲間はずれにすること、物をかくすこと、なぐったりけったりすることなど、友達が嫌がることは皆いじめです。だから、友達を悲しませるいじめをするのはやめましょう。

いじめられたらどうしますか?

その日のうちに、先生や家の人(お父さんやお母さんなど)に事実を話して、相談しましょう。

いじめをする友達がいたらどうしますか?

普通の優しい声で「やめたほうがいいよ」と止めてあげましょう。それでもやめないときは、先生や家の人(お父さんやお母さんなど)に相談しましょう。いじめをしている子も、いじめをやめればいい子なのですから、仲よくしてあげましょう。



## 大人の皆様へ (パパ&ママ、ジジ&ババ)

他人のすることは、よい事よりも悪いことのほうが目に付き、気になるものです。そして、イライラして暗い気持ちになりがちです。



池袋駅の通路で、高齢者が「どけどけ、邪魔だ、邪魔になる!」と怒鳴りながら前の人を突き飛ばしながら歩いていました。高田馬場駅で中学生が数人、駅員の注意も聞かず通路をふさいでおしゃべりをしていました。

高齢者がもしかしたら認知症かもしれないと思いついたら、進んで道を開けてあげられたかもしれません。命令口調でなく、「君たち、こっちでゆっくり話したら…」という言い方ができるかもしれません。そこで、視点を変え、むしろ良い所を見かけたら、いい人に出会ったら、そのことを喜び、そして周りの人に「その良いこと」や「感激したこと」を知らせるようにしたらいかがでしょうか。

## 学校の先生がたへ

ゼロトレランス (zero tolerance) は、「寛容度ゼロ」と訳されます。

小さな規則違反や不法行為等を曖昧にせず、行為の段階に応じてペナルティ (penalty : 罰則) の伴う行動規範を示して進める生徒指導法のことです。「毅然とした対応」という言い方をすることが多いです。

生徒指導(基本的な生活習慣、学習規律、生活規律、人間関係、公共物を大事に、協力、親切など)を、罰則を振りかざして画一的に指導することは、「教育的でない」「もっと柔軟に指導すべきだ」などという批判もあります。

ルール(規則、きまり、手続きなど)とマナー(挨拶、食事マナー、礼儀作法など)、エチケット(親切、手助けなどの心遣い)などについて、子どもの発達段階に即して平素からきめ細かく繰り返し指導していることが必要です。このことを前提にしかも子どもや保護者に事前に説明した上で、指導の一環として、人権に配慮してペナルティを課すことは検討していいかもしれません。小・中一貫を視野においてチーム学校としてお考えください。

